

# 味のある空間のイメージに関する研究

白藤 慶樹<sup>1</sup>・田中 一成<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 学生非会員 大阪工業大学院 工学研究科 (〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮 5 丁目 16-1, yoshikishirafuji@gmail.com)

<sup>2</sup> 正会員 大阪工業大学院 (〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮 5 丁目 16-1, kazunari.tanaka@oit.ac.jp)

古来より,日本人には「味がある」と表現される美意識・価値観が存在する。味とはどういう印象なのか,どのように感じられるのかを,明らかにする。これにより,この概念が今後広く使われる可能性を考察する。調査方法は,5段階のSD法と,基礎調査に基づいて上部,下部,側面をそれぞれ暗く暖かく編集した6つの図の並べ替えによるアンケート調査からえられた統計データを基に分析を行う。SD法アンケート結果から確率分布,共起ネットワーク,因子分析を行う。確率分布・共起ネットワーク両方の結果より,部屋の形式によって味を感じる空間に違いがあることが分かった。

キーワード: 味, SD 法, 共起ネットワーク

## 1. はじめに

上下水道や道路,堤防などの構造物は建築物等と異なり,その評価方法は必ずしも充分とはいえない。社団法人土木学会は,歴史的に重要な構造物・建築物を土木学会選奨土木遺産<sup>1)</sup>として認定しているが,認定するにあたって,特に技術面と希少性に重きをおいて評価している。これらとは異なる角度からの評価を取り入れることで,土木構造物の保全・保護,あるいは計画や設計に対しての新たな視点や価値観を生み出し,その捉え方が変わる可能性があると考える。



図-1 土木学会奨励土木遺産,薬水拱橋

## 2. 研究の目的と方法

建築物のファサードの古さの評価や,住宅や室内の落ち着きに関する研究はなされているが,味についての言及はなく,直接空間の味に関する研究はなされていない。本研究では,基礎調査として行った KJ 法と

「味のある空間」としての「味」の意味についてのアンケート結果にもとづいて,室内に関して「味がある空間」を捉えやすいと考えられたため,将来的には屋外の構造物や公共空間に適用することも視野に入れ,実験操作のしやすさを考慮して室内空間を対象とする。研究方法は,画像処理を行ったシーンをもとにした実験をもとに,得られた統計データをもとに画像と味の関係について分析を行い,得られた各分析結果に対して考察を行う。

## 3. 味のある空間を構成する要素とその評価

本研究では被験者に自由に想像された空間を対象に印象評価を行うために,5段階のSD法による質問と,その想像された空間を和室・洋室・木調といった部屋の形式と室内にあるものをおおよそ把握する質問を用いたアンケート調査を76人に対し実施した。得られたデータに対して,形容詞の選択割合等から確率分布による分析,共起ネットワーク分析を行う。

空間の形式ごとに確率分布を分けると,形式によって軸の位置や曲線のなだらかさには差が出た。共起ネットワーク分析の結果として,部屋の形式により,形式とものの関係に大きく差が出た。部屋の形式によって味を感じる空間に違いがあることが分かった。

#### 4. 視線方向とイメージの関係

視覚的に味に影響を与える方向と評価の関係をみるために、1つの図の明るさと暖かみを編集し組合せて4つの図を使った一対比較による評価（調査1）を約98人に、1つの図の空間構成要素<sup>2)</sup>、上方(a)・側方(b)・下方(c)・上方側方(d)・側方下方(e)・上方下方(f)をそれぞれ暗く暖かく編集した6つの図の並び替え評価（調査2）を29人に、それぞれアンケート調査を実施した。



図-2 実験写真例, 上方 a(左上), 側方 b(右上), 側方下方 c(左下), 上方下方 d(右下)

はじめに、調査1より、図を暗く暖色を強めた図が最も味があり、味を感じる要因として、暖かい>暗い>明るい>冷たいという順で味を感じるという結果を得た。

次に、調査2より、順位に応じて点数評価を行った結果、2箇所を編集をした図が上位に、1箇所を編集した図が下位となった。味を感じられると思われる箇所が多い図の方が味を感じられやすいことが分かった。さらに、この調査において、回答者が連続して選択させた図について、考察した結果、ある1つの箇所に注目し、次いで異なる方向をみることで順位を決定していることが分かった。

最後に、編集した箇所について、選択回数と順位からレーダーチャート図を1位から6位まで作成すると、図2のように側方と上方下方を基準に直線が引ける。これにより、一般的に味を感じるにあたって注目する

のは、側方上方側に多く、下方にはあまり注目していないといえる。

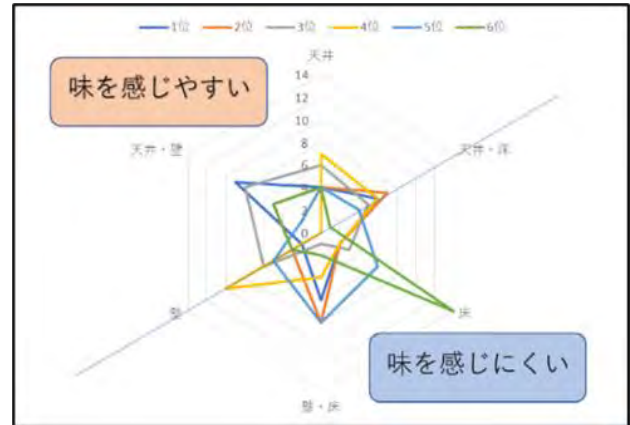


図-3 レーダーチャートによる評価

#### 5. おわりに

本研究では、味のある空間のイメージについての全体像を把握を行った。基礎調査の結果より、空間にあるものが、その空間の添景のような役割を担っていて、結果としてその空間には味があるという印象をもたらすと推測した。空間構成要素に関する調査分析より、味のある空間はどのような空間であるか推測を可能にする味の因子を得た。また、実験対象としての空間の形式により顕著な差がみられることから、その形式に合ったものや雰囲気構成された空間に味を感じられるという傾向がみられた。さらに、位置に着目した結果、味の要素の優先順位や、味を感じる時に注目される箇所の特定に至った。しかし、SD法で抽出された味と、分析時の味に差がみられたため、この差の明瞭化や、対象を分けた時の味の感じ方の変化について比較する必要がある。

#### 参考文献

- 1) 土木学会土木史研究委員会、『日本の近代土木遺産(改定版)―現存する重要な土木構造物 2800選』、土木学会、2005
- 2) P.シール、船津孝行訳編『環境心理学 6 環境研究の方法』誠信書房、1975 0665944033